

31. 1/5 (土) まど! 倫理号です。平成最後の初号です。来る新年号いかなる年になるでしょう。か
五に一本勝負です。今年も直し一本勝負に挑戦。 幸せ願ひも

今週の倫理 1115号 2019.1.5 ▶ 1.11

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所二代目理事長・丸山竹秋（一九二一—一九九九）のこ
とばを掲載します。

知り合いのK子さんが、書道を始めた。しばらくたつ
てから、今まで習ったところを清書して出すようにいわ
れた。そこで清書を二枚書いて持っていたら、先生は
即座にこう言った。

「同じ字の清書を二枚出すということはありません。
墨がうすくても、間違っている、まずくできあがつて
も、これ一枚が自分の全力と想って、しっかりと書かねば
なりません。それが清書というものです。しくじつたら
やり直せばよいというのならしない気持ちで書
くと、何枚書いても、清書にならないのです。だから、私
に出すときにはこれ一枚、書き直しはしないと心を決め
て書いたものを持って来てください」

K子さんは、この時、人生のある重大なものに触れた
ように、心が引き締まった思いでした、と後に私に語っ
てくれた。

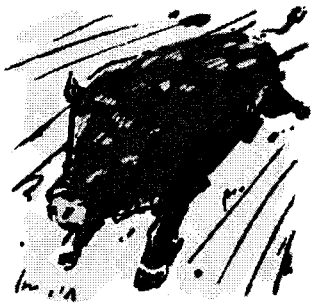
絵でも、展覧会に出すのに、二枚同じようなものを出
品して、さあどちらを選んでくださいというわけにはゆ
かない。大勢の前で演奏したり、歌ったりするのに、二
度ずつやって、皆さん、どちらが良いと思えますか、な
どといったら、聴衆は怒ってしまうだろう。

芝居やバレエなどでもまったく同じことで、練習や稽

1月のテーマ | 全力を尽くす

人生は一本勝負

丸山竹秋



古の時は、何回やり直したっていいだろうと思われるか
もしれないが、一々については、その時々を全力を尽く
してやらなければならぬ。力を入れ、心を込めて、公
演と同じ時のようにやろうと努めなければ、真の練磨に
はならないのである。心に余裕を持つことは大切だが、
何度でもいいかげんにやってよいということでは、技は
磨かれないと、その道の達人たちは一様に説いている。

試合の苦しいコースに入って、どうも今、具合が悪い
からもう一回やり直してくださいよと、自分だけの勝手
をいうわけにはいかぬのと同じように、自分の境遇が悪
いからといって、また裕福な人の子に生まれ変わって人
生をやり直すわけにはいかないのである。

この意味で、しようと思いついたことをぐずぐず躊躇
して延ばすことは、幸福を失う大きな原因となる。お花
でも裁縫でも、習おうと思つたら、その時にさっさと習
うようにしなければならぬ。

まあまあと思っていると、いつまで経つても、習うこ
とはできない。お世話になっている人を訪問し、お礼を
しようと思いつく。しかしまあ、そのうちにと、ぐずぐ
ずしていると、いつまで経つても出かかれず、知らぬ
うちに先方は感情を害していることもある。

人生は一本勝負である。待たなれぬ。明日では
遅すぎるのである。新しい年を迎えて、今年こそ私たち
は、その時々をフルに生かし、充実させてゆこう。

(著書『幸福の決め手』より)

一般社団法人 倫理研究所 法人局

一月一巻の一句です。平成も千夜のおわりも一夜の一番。私今年も男が女です。直し一本勝負。